

グループ研究成果発表

忍馬車鉄道

平成26年度1学年6期生
歴史・文化Aグループ

1. メンバー紹介と役割分担

①グループ人数 (男性 7名 女性 3名)

②役割分担

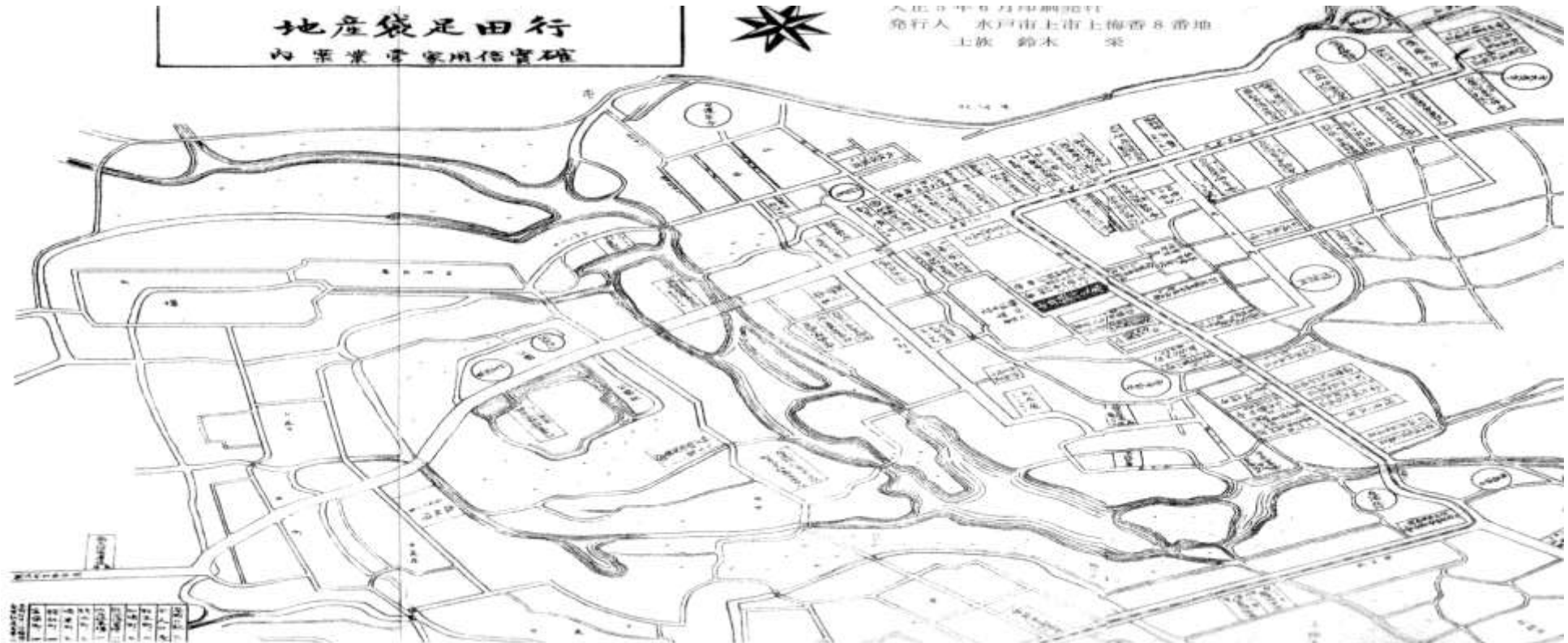
リーダー	一條 靖喜	資料まとめ	伊佐 聖一
サブリーダー	伊藤 孝明		岡田 安秀
総括	阿久津 昌二		岡田 れい子
写真	棚橋 一成	パソコン	五十幡 隆
書記・会計	奥山 紘子		
	菊地 光子		

3. メンバーの顔ぶれ



4. テーマ選定理由

- ① 古老の話して昔馬車鉄道があったと云う、興味を持ったので調べることにした。
- ② 現在の街並みとの比較（道路わきに足袋屋さんが軒を連ねていた）



明治14年旧国鉄前進日本鉄道株式会社(日鉄)設立

明治16年上野熊谷開業、翌17年高崎まで

前橋、赤羽、品川、横浜(貿易港)を結び両毛地区の産業生産物の流通を円滑にする。
このルートに外れた北埼地区、両毛地区を横に結ぶ鉄道建設の計画が起こるが、いずれも却下される。

明治32年忍町有志により忍馬車鉄道設立

明治33—34年開通

明治38年行田馬車鉄道株式会社設立

最大運行時20往復。客車(8名)5両。貨物車2両。馬12頭。

運賃行田吹上間8銭

大正10年行田、羽生を結ぶ北部鉄道開業

大正11年行田、熊谷を結び秩父鉄道が開業。馬車を全廃し自動車部門に移行、
行田自動車株式会社に改名。翌年レール撤去。

5、馬車鉄道とは？



これは、当時といえども全国に二つしかないといわれた特殊なもので、**読んで字のごとく線路の上をマッ子箱のような小さな客車が、一頭の馬に依って牽引されるもので、前に御者、後ろにベッターと呼ばれた切符切りと二人の乗務員で運行し、下町から吹上まで毎日運行した。**

客車の、車体は木製で幅5尺、長さ8尺、高さ7尺1寸、でした。

6. 馬車鉄道路線図(行田～吹上間)

現在



歴史

- | | |
|--------------------|--------------------------------------|
| 1899年(明治32年)4月26日 | 馬車鉄道が馬車鉄道の営業の特許を交付 |
| 1900年(明治33年)12月29日 | 佐賀～佐間間を開業 |
| 1901年(明治34年)6月2日 | 吹上～佐賀間及び佐間～下町間を開業
吹上～行田間 5.3Kmを開業 |
| 1905年(明治38年)5月 | 馬車鉄道の事業を引き継ぎ行田馬車鉄道を設立 |
| 1923年(大正12年)4月29日 | 吹上～行田間全線廃止 |

輸送実績

客車：5両 貨物車：2両 馬：12頭

年度	1908	1909	1910	1911	1912	1913	1914	1915	1916	1917	1918	1919	1920	1921	1922
	明治41年	明治42年	明治43年	明治44年	大正元年	大正2年	大正3年	大正4年	大正5年	大正6年	大正7年	大正8年	大正9年	大正10年	大正11年
輸送人員(人)	83,919	78,959	70,887	72,524	74,376	79,568	79,849	76,480	86,173	92,148	98,348	112,811	88,473	72,694	65,274
貨物量(トン)	579	374	498	500	580	674	323	237	367	365	114	119	28		

運行概要

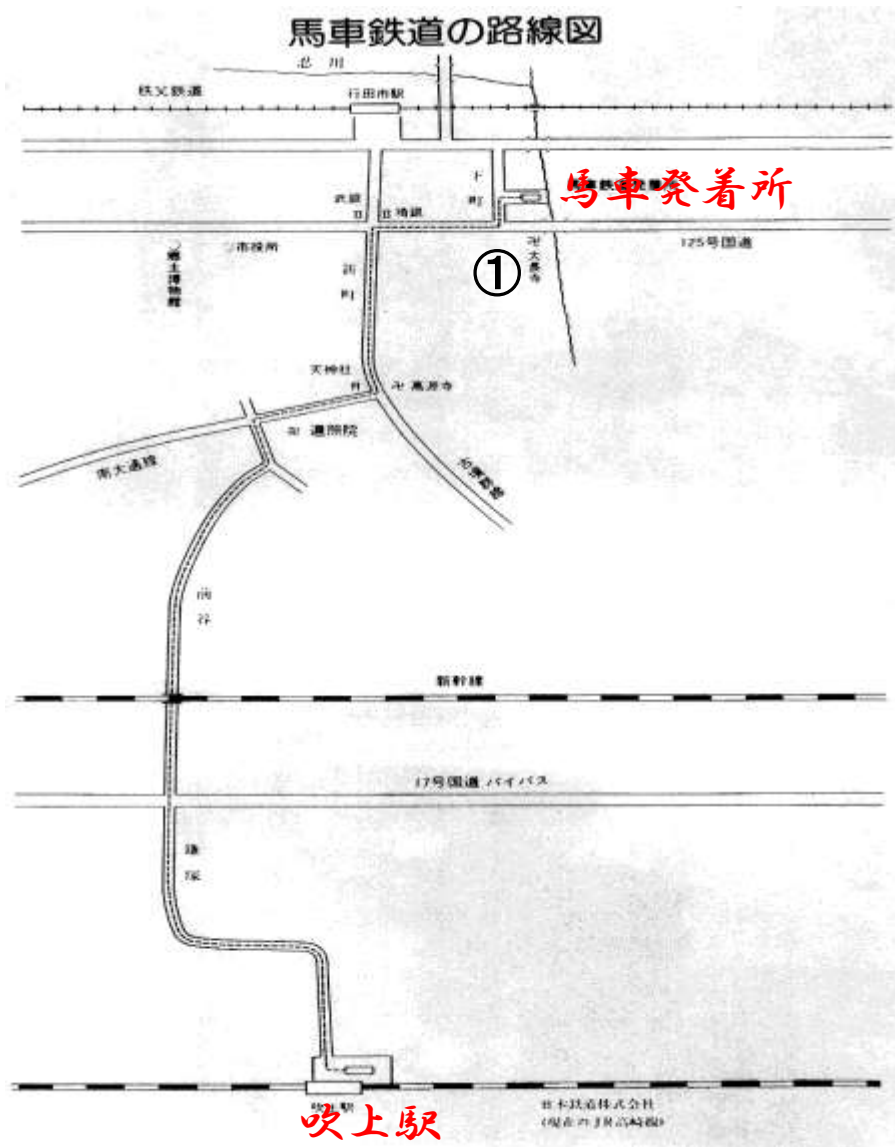
1日 最大 20往復程度

開業しても経営的には、赤字をださない程度の細々としたものでしたが、年間7~11万人の人々を運びまさに、行田の人々の足となっていました。

馬車鉄道も自動車という新しい技術と秩父鉄道の開業と新しい交通手段ができることにより、大正12年約20年余りで廃止・役割を終えた。

7. 馬車鉄道の路線

① 下町



昔



起点(行田馬車鉄道会社))

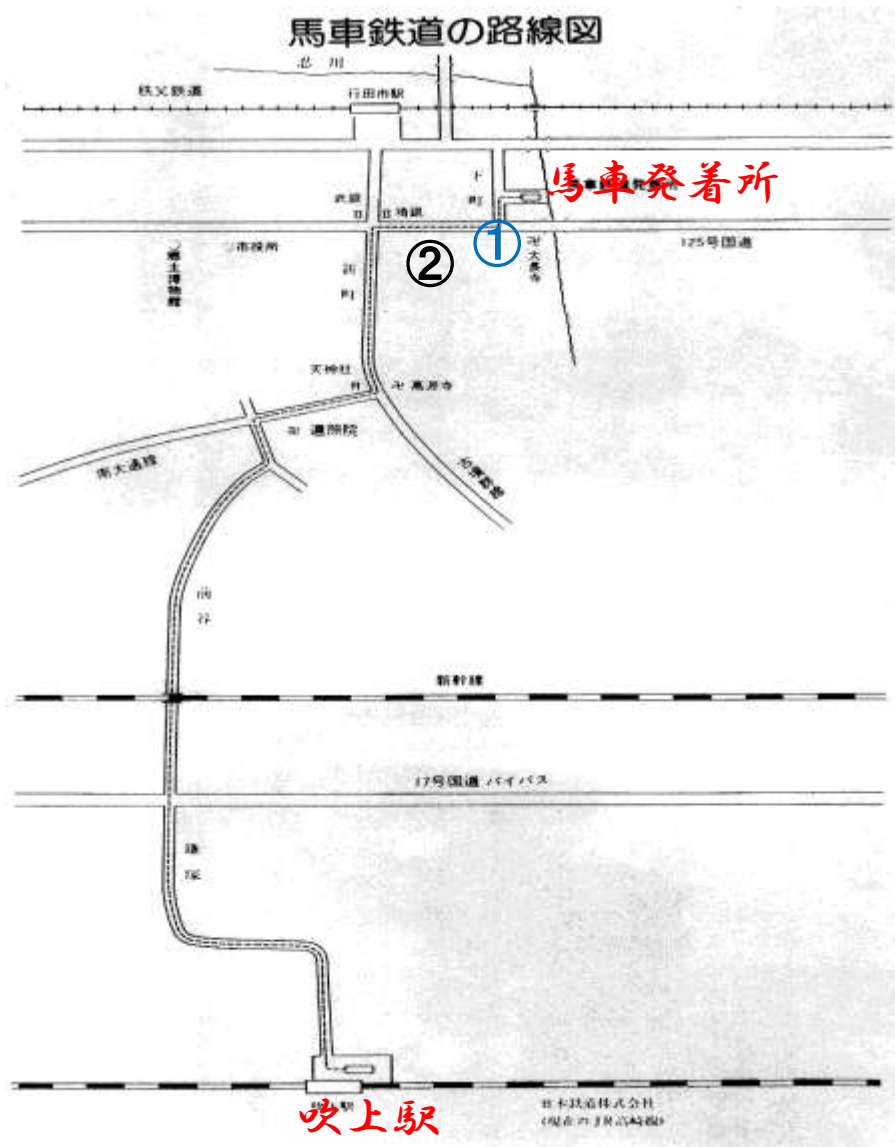
今



起点(行田馬車鉄道会社跡)

7. 馬車鉄道の路線

② 本町



昔



忍町一の足袋商



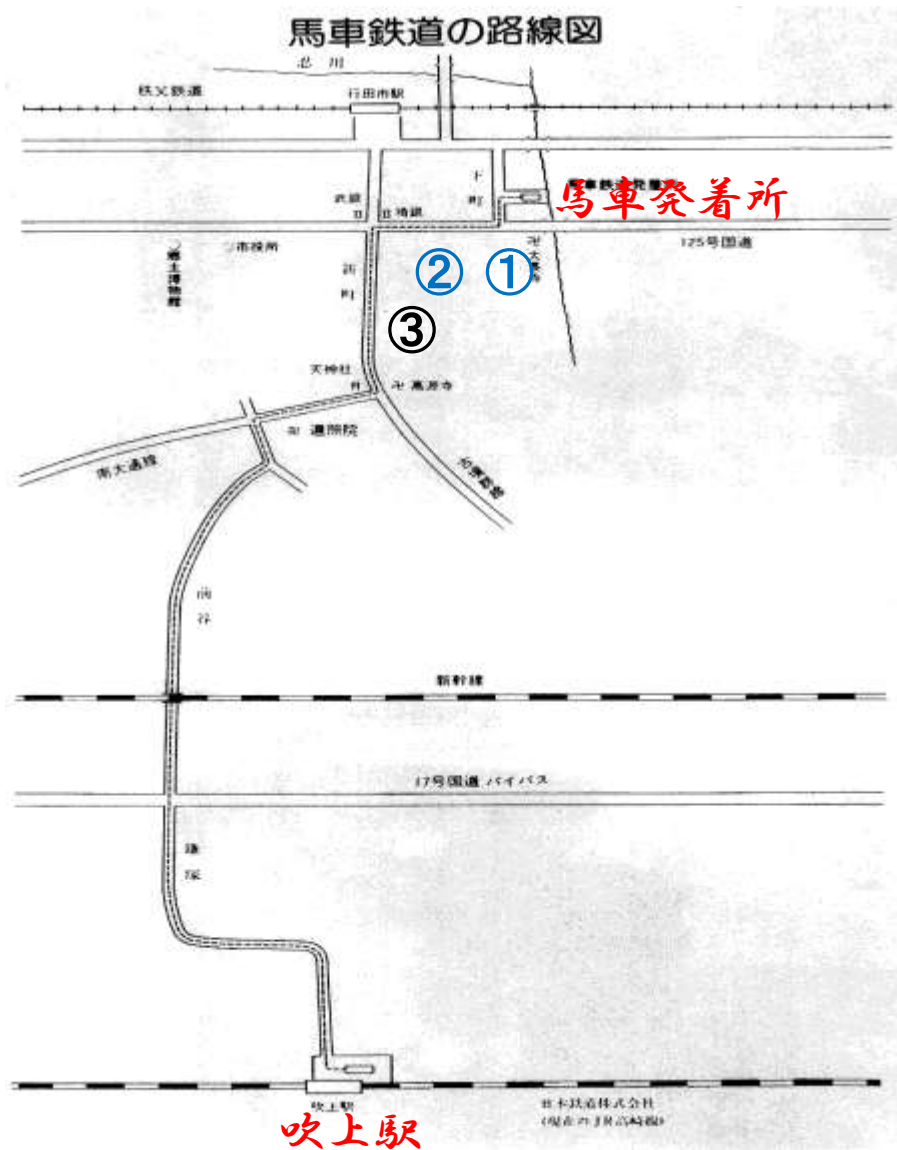
商品の積み出し(店先)

今



現在の橋本ビル(パシオス)

7. 馬車鉄道の路線



③、新町

昔



新町通り

今

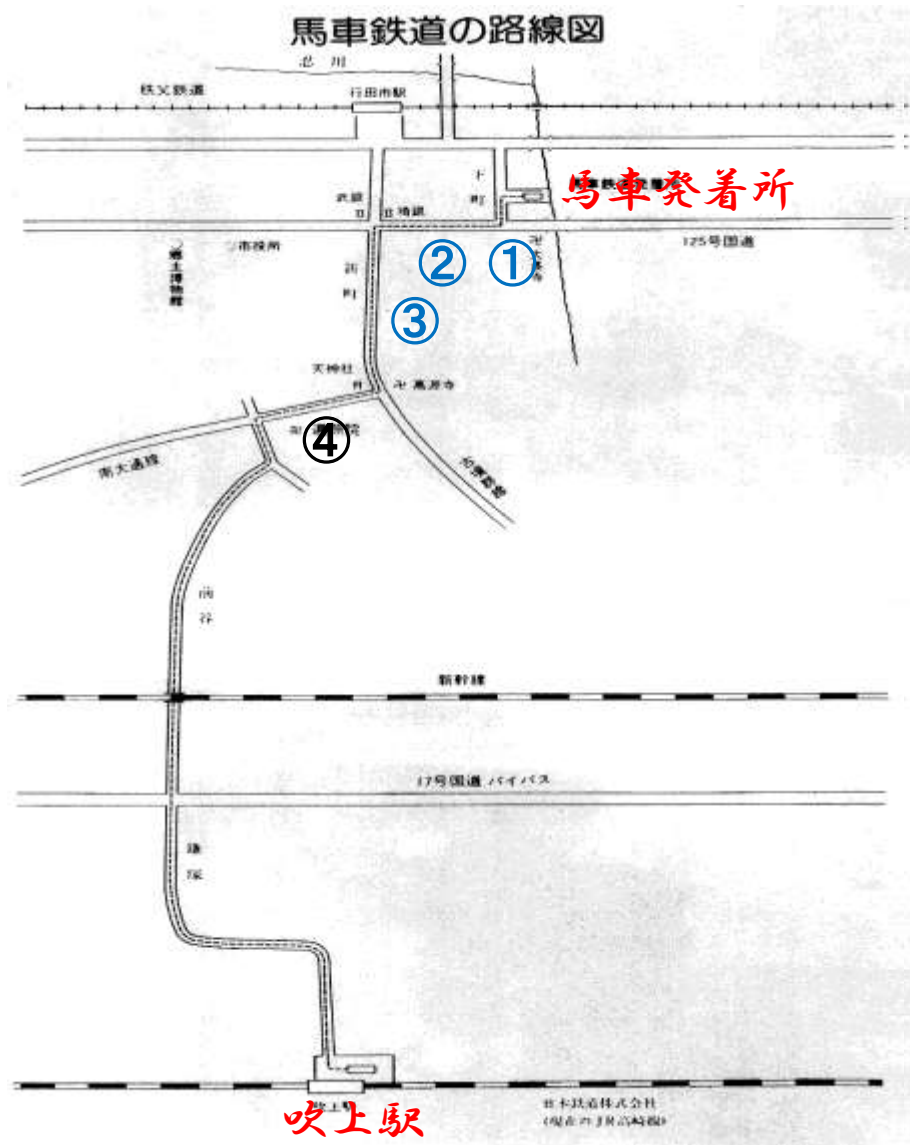


奥貫蔵停留所



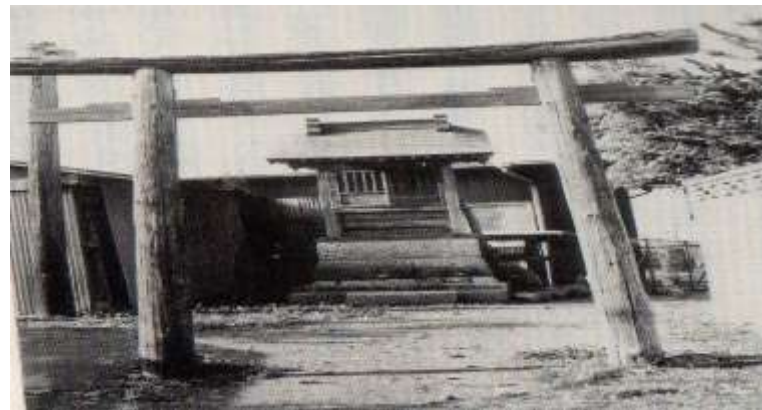
現新町通り市駅を望む

7. 馬車鉄道の路線



④. 大町通り

昔



旧水戸殿稻荷

今

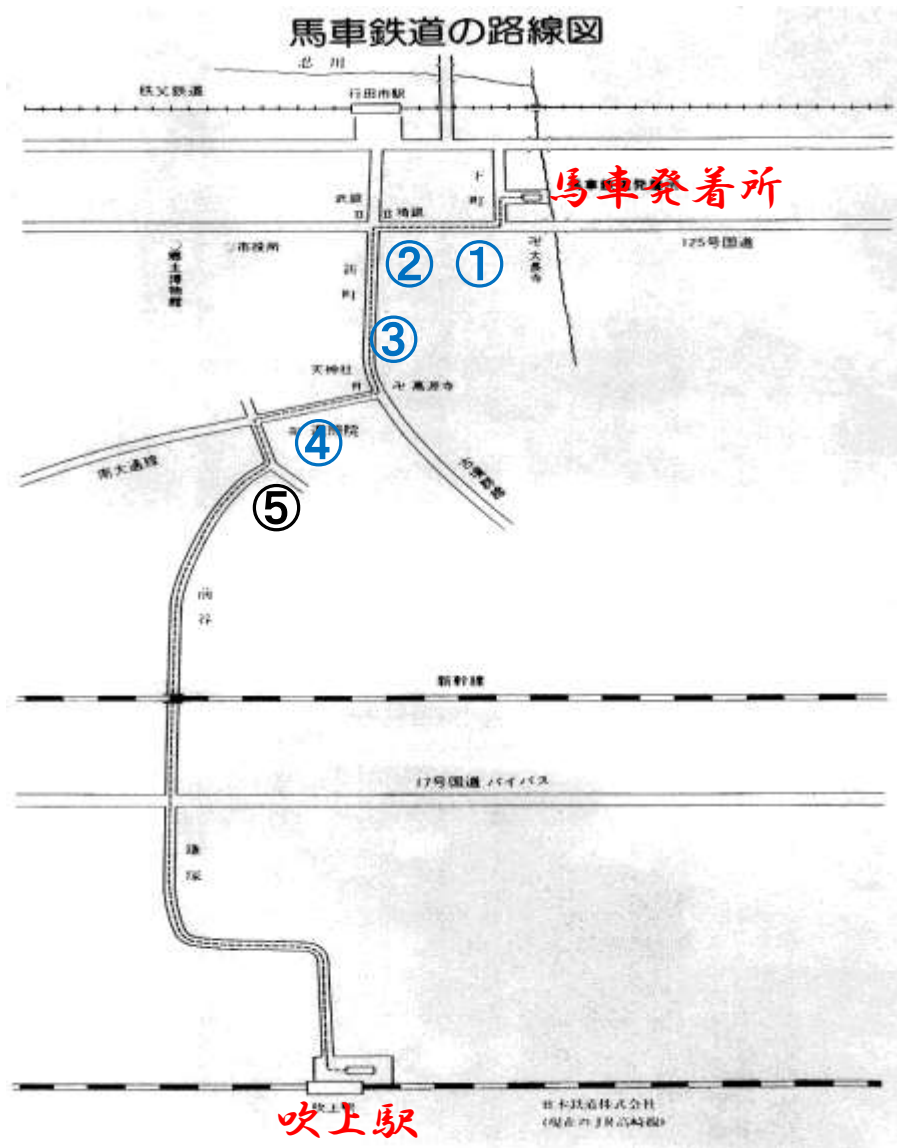


停留所 広瀬屋



現水戸殿稻荷

7. 馬車鉄道の路線



⑤、駒形

昔



遍照院

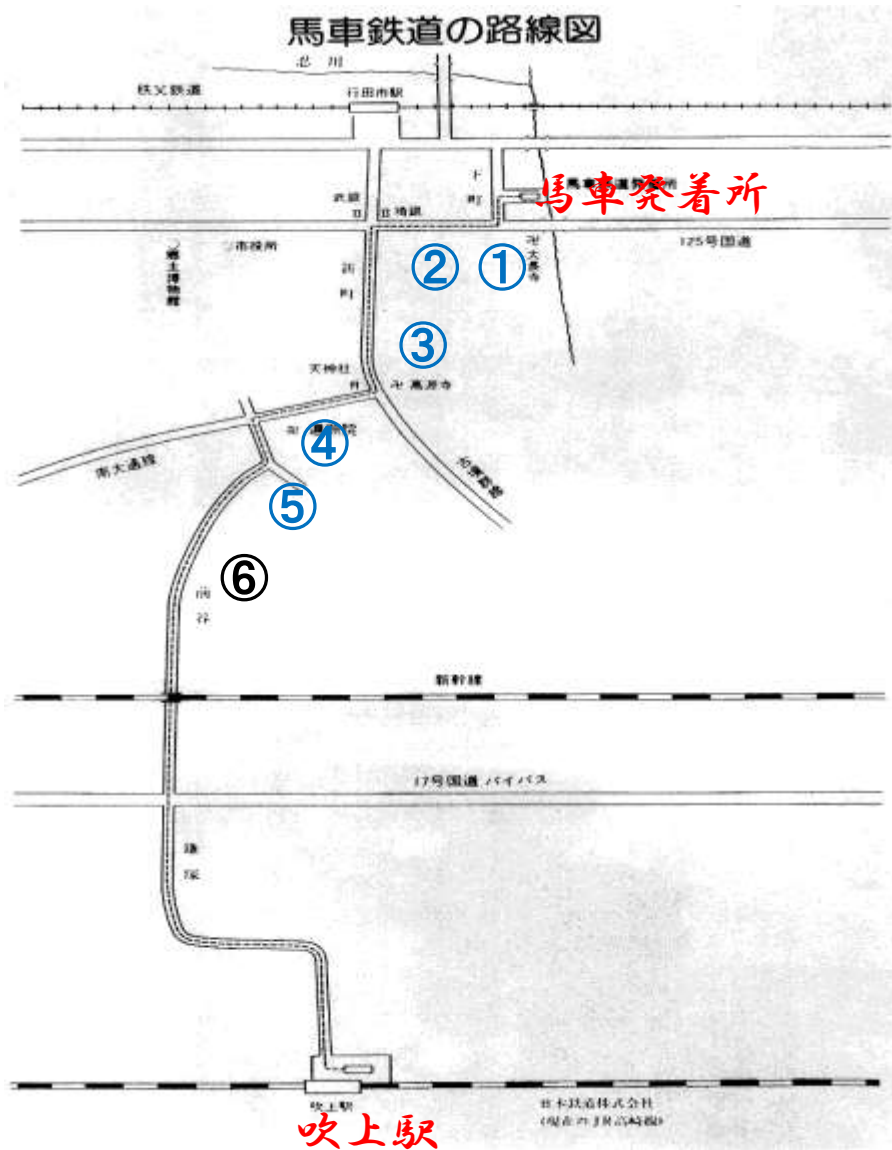
今



吹上方向を見て新兵衛地藏周辺

7. 馬車鉄道の路線

⑥、前谷



昔



前谷新田に行く鉄道馬車



線路で遊ぶ子供達

今

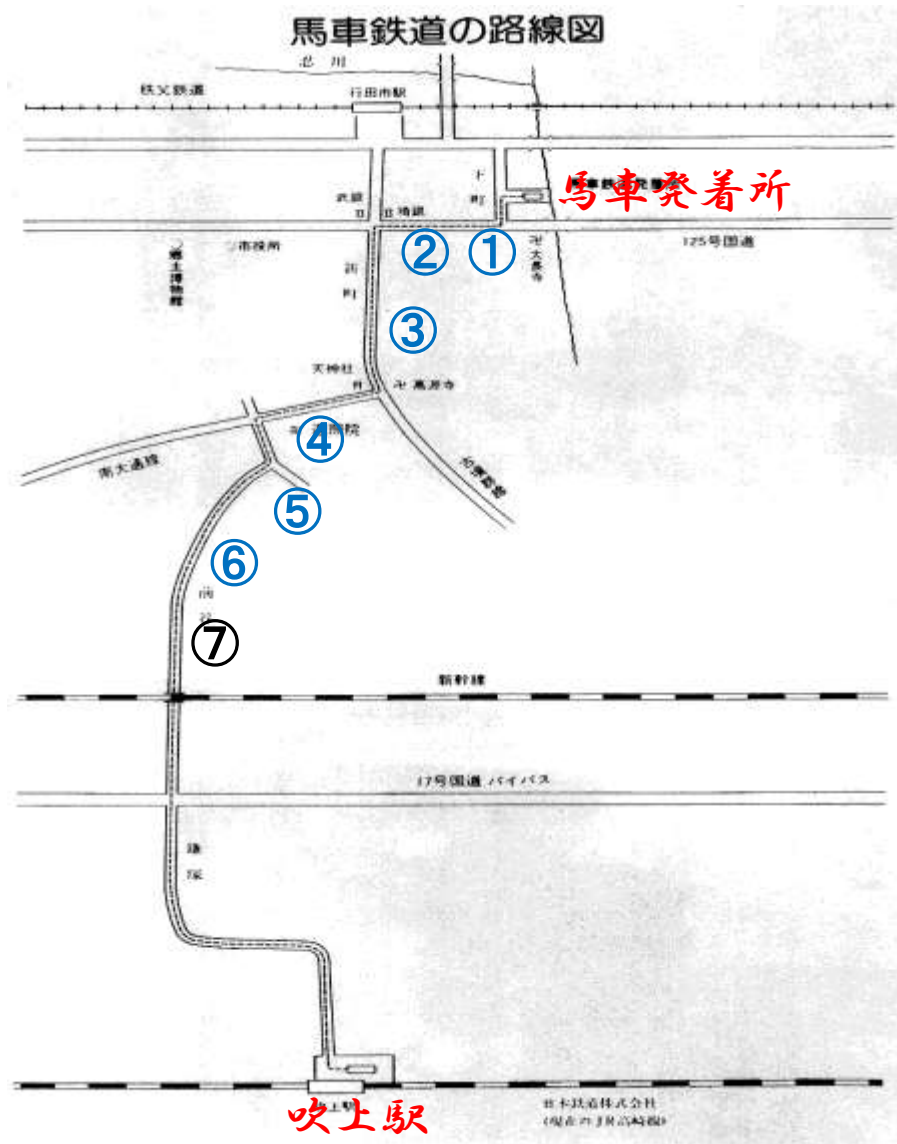


規格通りの道幅



水飲み場？

7. 馬車鉄道の路線



⑦. がんがら橋

昔



木製の橋

今

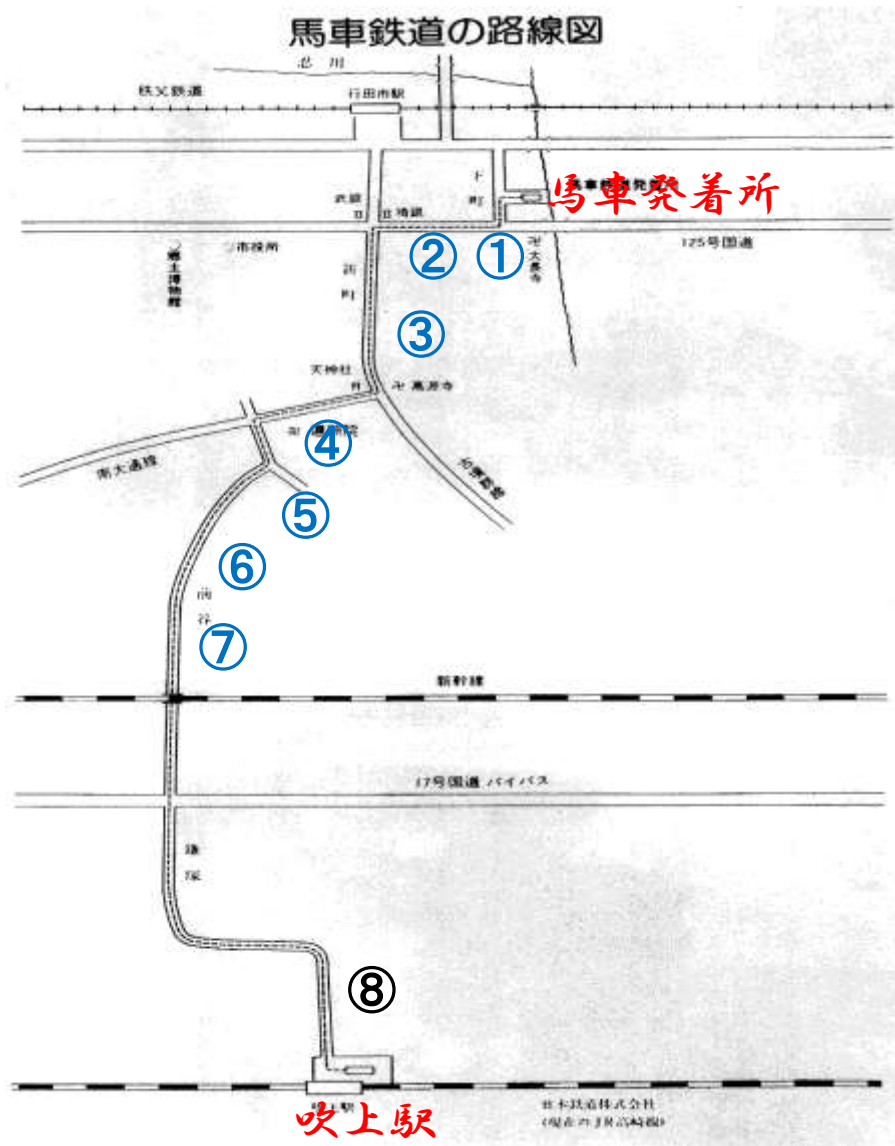


歩道に埋めこまれたモニュメント



現在の橋

7. 馬車鉄道の路線



⑧、吹上

昔



起点(当時の吹上駅)

今



現在の吹上駅

8.まとめ

馬車鉄道を吹上から下町まで古い地図を参考に現在の道を歩いてみました。

古い地図と現在では荒川の流れも大きく変わり道も旧道と新道が入り混じり、苦勞しました。

各ポイントの佐賀橋、がんがら橋、前谷、新兵地藏、大町通り、高源寺、新町通り、

本町通り、下町と続き商店街には多くの蔵が見られ楽しく歩く事が出来ました。

★参考文献

「行田・忍城と町の歴史」 「北埼玉郡忍馬車鉄道株式会社線吹上行田間平面図」

「日本帝国統計年鑑」

「埼玉県統計書」

「忍 高法」

「埼玉の鉄道」

「吹上ステーション物語」